



三木 尚 議員

問1

北陸新幹線若狭ルートは田中内閣の閣議決定以来、不動のルートであると確信しているが小浜市はどう考えているか。琵琶湖若狭湾快速鉄道が福井県の重要要望事項から欠落したが県は真剣に取り組みがあるのか。舞鶴若狭自動車道の小浜西IC以降の工事は順調に進んでいるのか。

問2

去る六月議会で中間貯蔵施設の誘致に関する杓子議員の発言の中で栗田前知事の県議会答弁を引用されたが誤りではないのか。当市は大飯発電所に関わる安全協定を関西電力(株)と結んでいるがこんな簡単な協定で市民の命と生活が守れるのか。発電所の下に三菱重工をはじめ優良企業が多数参加しているが工場誘致が働きかけられないのか。

問3

市長直属の地域戦略室を設置できないか。

問4

耳や目に生涯を持つ子供達を地元で就学させてあげられないか。



井上 万治郎 議員

問1

計画道路の進捗状況と開通予定年度を問う。

答

若狭西街道の今富大橋、東勢までは平成十七年度供用開始予定。西街道全線開通は平成十八年度予定。舞鶴若狭自動車道小浜西IC、小浜ICの供用開始目標は平成二十年。国道一六二号尾須ノ鼻三〇〇メートルの拡幅改良工事は県単事業で早期の完成を要望。生野尾線の尾崎ノ尾須ノ鼻の六メートル道路への改良工事は平成十六年度より四カ年を予定。

問2

原発へのテロ対策として快速鉄道とは別に高規格道路建設の必要があると考えるが。

答

将来的な必要性として国などに働きかけているが舞鶴若狭自動車道、宮津京都縦貫道の開通がまずは必要。

問3

害獣(猪鹿猿)対策を問う。

答

昨年度の水稻の被害は、一・三ヘクタール、五一二万三千元で他の農作物も被害が出ている。今後市において「カコイ罾」数台を貸し出す。



小堂 清之 議員

問1

耕作放棄地の拡大等生産条件の悪い地域農業の将来をどうするか。

答

食のまちづくりの一環として担い手による規模拡大や有機米など品質の良い米作りの推進、土地、条件、消費者ニーズに合った作物を選定し野菜の産地化等により地域農業の活性化を図っていく。また生産物を地元市場へ供給拡大し、学校、病院等公共施設での利用を積極的に進めていく。具体的には今年度作成する水田農業ビジョンの中で方策を明らかにしたい。

問2

急傾斜地の危険対策は。

答

法律により現在十八箇所が指定されているが工事中と工事予定が各一箇所ある。

問3

集中豪雨による中小河川の増水、土石流対策について。

答

平成十二年度では三三〇の危険箇所があり全ての整備は困難である。土砂災害マップを作成し自主防災意識作りに取り組む。



下中 雅之 議員

問1

女性専門外来を公立小浜病院の高度医療施設整備計画に伴い設置についての考えを問う。

答

女性のプライバシーを保護し安心して受診できる環境を整えることが必要となっており重要な課題であると認識している。今後、思春期外来の設置を予定。女性医師等の医療マンパワーを充実し、プライバシーの侵害とならないよう配慮した施設にしたいと考えている。

問2

若狭路博におけるバリアフリーに対する配慮と簡単でわかりやすいバリアフリーガイドマップを作り全戸配布や関係機関に設置してはどうか。

答

各会場のバリアフリー化については、万全を期している。障害者、高齢者等弱者に対応するため簡単でわかりやすいバリアフリーガイドマップを作成し全戸配布の方向と関係機関の設置について対応する予定。



風呂 繁昭 議員

問1

実質単年度収支が黒字なら市民要望事項へ積極対応を。

答

起債方式の財政運営から脱却し財政調整機能を十分に果たせるよう、有利な補助金や良質の起債等の組み合わせによって計画どおり進める。

問2

事業者の育成、企業立地雇用の促進について。

答

各種製造業との面談PR、事業拡張に伴う支援制度の説明、企業誘致と地域産業活性化の小浜市企業振興条例を大幅に緩和している。

問3

子育て支援について。

答

特別保育事業の延長、一時、乳児、障害児、学童保育の充実、母子家庭の土曜保育の無料化を実施している。

問4

小浜小学校建設について。

答

必要面積を検討し取得方法を十分研究協議していく。健保会館、三角地は、必要性も含め検討していく。

問5

小浜市における小浜地区の位置付け。

答

商業の中心地、歴史の感じられる古い町並みを残し「小浜の顔」であり、活性化していく重要な地域である。